

神戸高商 大阪高商 県立神戸高商の仲

淡水会 学部 7 回 昭 32 年卒 野田五郎

旺盛な寄付文化 大阪

江戸時代大阪は幕府の直轄で奉行所があり役人もいたが、しかし幕府は大阪町政に力ネは出していない。町は税で運営されていた。納税していたのは 1 部の成功者で、堀や橋といった公共の建造物は成功した商人の寄付でできていた。淀屋橋のように寄付した人の名のついたものもある。当時は土農工商の身分差別の時代で商人は最下層だったが、そんなことで大阪では商人は敬意を集めていた。殆ど大阪商人は敬虔な佛教信者で南北御堂の大伽藍が見える船場に住みたがり、朝に夕に仏壇を拝み、商売で儲けた力ネは世間から預かったもの、世間に返さなければならないと思っていた。こうした大阪商人の公け心は江戸時代にできて明治以後も続いた。中之島中央公会堂は大正 7 年に株で大儲けした岸本栄之助氏の寄付である。あんな豪華絢爛な公会堂は他に例がない。今も現役で使われている。

寺子屋と懐徳堂

浪速文化の今 1 つの特徴は勉学を尊ぶ習慣だ。商売には読み書き算盤が必要で人々は子供を競って寺子屋に通わせた。江戸時代大阪の寺の多さは日本 1 で、寺子屋の数も日本 1 だった。そのせいで大阪の識字率は日本 1 だった。当時世界 1 の文化都市とされたロンドン市民の識字率を上回っていたとされ、幕末の開国で大阪にやって来た西欧人がそれに驚き、日本の植民地化を断念する理由になったとされている。

1724 年 享保 9 年に鴻池善右衛門の寄付で本邦初の学問所の懐徳堂ができた。幕府はそれを知り各藩に学問所の創設を勧めた。その結果幕末には多くの藩に藩費と呼ばれる学問所ができた。水戸藩 佐賀藩の弘道館 会津藩の日新館 加賀 名古屋藩の明倫館 備前藩の関谷館 肥後藩の時習館 薩摩藩の造士館がそれである。只 こうした藩費は藩士の子弟教育が目的だったが、懐徳堂は一般庶民が対象で差別がなかった。そこが懐徳堂と藩費との大きな違いである。身分差別のない大阪は江戸時代既に民主主義の素地はできていた。しかも懐徳堂の月謝は銀 1 匁、現価換算 1758 円という桁外れの安さで貧乏でも通うのに支障がなかった。

懐徳堂は寛政年間に出火で全焼したが、僅か 4 年で多くの人の寄付で再建された。これも凄い話である。懐徳堂は維新で閉鎖されたが、阪大の西尾章治郎総長によれば今の大阪大学は懐徳堂と適塾が始祖だそう。適塾は江戸末期に緒方洪庵が北浜に開いた蘭法医学

塾で新しい西洋の学問を教え福沢諭吉も学んだ。適塾の建物は今も現地で公開されている。

藩閥が教えていたのは主に論語や日本史だった。論語や日本史とは恩を教える儒教であり謀反は起きない。だから江戸幕府は儒教を奨励した。只、儒教下では新しいことができない。中国や韓国の開国が遅れたのは儒教が国教だったからとも言われる。日本でも忠孝は基本の倫理で忠臣蔵の人氣が衰えないのはそのせいだ。しかし日本は神道の国である。懷徳堂が教えたのも新しい海外の学問だった。幕末になると福沢諭吉や吉田松陰が新しい思想の教育を行ない、適塾や松下村塾で育った人物により討幕と開国が行なわれ明治維新は成し遂げられた。儒教には功罪 2 面あることを認識するべきである。

大阪帝大と大阪高商の設立

戦前の日本には帝大が 7 つあった。その 1 つの大阪帝大には他と違う点がある。それは驚く勿れ大阪帝大の設立に文部省からカネが 1 銭も出なかったことだ。大阪帝大は創立資金と当初 3 年間の運営費の全てを地元負担という条件で 6 番目の帝大に認可された。開学が 5 月というのもその年の 4 月はまだ未認可で、陳情に上京していた人達は東京駅でその報を受けその場で抱き合って喜んだ。大阪医専が最初に帝大の昇格申請したのはまだ明治だったが、文部省は近くに京大があると言いその後も大阪帝大を却下し続けた。それにしても帝国大学の設立資金全額を地元負担なんて常識では考えられない。阪大は大阪人の公共心と向学心が旺盛だった象徴である。

今回大阪公立大になった大阪市大は創立した時から市立だった。しかし 3 商大と言われたのになぜ大阪だけは市立なのか。どんな訳があったのか。東京に高商ができて大阪と神戸は揃って国に高商の設立申請をした。しかし明治 33 年の帝国議会は関西に 2 つも高商は不要として、71 vs 70 の僅か 1 票差で神戸を認め大阪を却下した。すると大阪はそれなら高商は自分達の手で作ると言って大阪高商は市立になった。しかも神戸高商の創立は明治 35 年だが大阪高商はその 1 年前の 34 年、大阪人は神戸に負けるのが許せなかった。

それにしても 1 つに絞るなら大阪じゃないのか。勘ぐり過ぎかも知れないが、維新で渋沢栄一が我が国商業の先進化を図る必要があると提言し、政府は明治 8 年に東京に商法会議所を開設した。これは後に東京商業を経て一橋大学になった。続き同 11 年に兵庫県令森岡昌純の申請で政府は神戸商業講習所を設置した。これは県神戸商業 俗称県商を経て現在は県立星稜高である。更に同 13 年に五代友厚の指導で大阪商業講習所を設立した。これは大阪高商を経て今春から大阪公立大になった。つまり商業講習所設立は大阪より神戸

が2年先行した。それが帝国議会が神戸を認可して大阪を却下した理由ではないか？

県立神戸高商の設立

私の通学した昭和30年前後の神戸商大は隣設の県商後身の星稜高と共に垂水の丘の上に聳え建っていた。通学バスを更に奥に約1キロ程行くと垂水ゴルフ場があったが、それ以外に民家は1軒もなく大学の裏は遥か彼方迄見渡す限り荒涼たる禿山^{かなた}だった。しかし卒業後神戸市は大規模な宅地開発をして禿山だった垂水丘陵一帯は人口数十万の大住宅地になり、神戸地下鉄が西神ニュータウン迄行き来するようになった。

昭和3年春にこの丘の麓のお屋敷に住む丘の地主、鉄工所を経営した駒井さんが田口政五郎垂水町長を訪れ「宇治電から分譲の要請があった。垂水振興のためこの山を開発したい」と町の意向を打診した。宇治川電力とは今の関電発電部門の前身で、当時は山陽電車も経営の1翼を担っていた。田口町長は明石の造り酒屋の息子で六高 東大 兵庫県議を経てこの月垂水町長になったばかりだったが、官立神戸高商が大学に昇格するので新校地を物色中と耳にしていた。駒井氏にその旨を告げると同氏は商大が来るなら土地は寄付すると大乗り気になった。そこで町長は大急ぎ上京して文部省を訪ねると、カネに困っていた文部省は願ってもない話とばかり新商大の垂水立地を了承した。

そこで町長は早速官立神戸高商を訪ね垂水に来てくれと頼んだ。しかし当時垂水は漁村の片田舎だったので多くの教員が垂水行きをイヤがった。用地探し担当の教官は自分達は西宮上ヶ原に行く積りだと言って垂水を断った。しかし同じ神戸上筒井にいた関西学院も引っ越す予定で、既に行先を上ヶ原と決めていたのにこの人はそれを知らなかったようだ。当時垂水にはまだ今のJR、省線電車が来てなく大阪から汽車で2時間かかった。そんな不便な所に行くと商大に昇格する大阪高商に新入生をごっそり奪われないかと恐れた。それが垂水を断った真の理由である。新商大は上ヶ原が関学に先を越されて用地探しは行き詰まった。凌霜会のうるさ方や財界のお歴々に急がされて担当者は狼狽え、遂に平生鈆三郎氏がこの用地問題に乗り出して来た。平生氏とは甲南学園の創始者で経営不振の川崎造船を立て直し後に文部大臣になった神戸のドンである。当時平生さんに楯つける人はいない。うるさ方の凌霜会も宇治電も口をつぐんだ。その後六甲台がいいと1件は落着した。とは言え六甲台は急傾斜地で整地にカネがかかった。程なく明石迄電車が行くようになり垂水は便利になった。もし神戸高商が垂水を断ってなかったら神戸大学は垂水だった筈である。

神戸高商の昇格が遅れて大阪高商がお先に

文部省は東京高商を大正9年に商大に昇格させ、続けて神戸高商も昇格させる手筈にしていた。ところが12年9月に突然関東大震災が起きて国は東京復興に膨大な資金が必要になり、文部省はそれどころでなくなった。この震災で昇格が保留されたのは他に東京高師(現筑波大) 広島高師(現広島大) 東京高工(現東大工学部) 大阪高工(現阪大工学部)があった。ところが大阪市が突然大阪高商の昇格を昭和3年4月と決めた。それを知った神戸高商は文部省に早く昇格させろと矢の催促をした。震災復興が思うように進まない中で昭和に入ると世界経済は大恐慌に陥り、日本も巻き込まれた。文部省はせっつかれて渋々認可したが、予科専門部の並設は当然ながら見送った。文部省が大阪帝大の設置費用を丸々地元に押し付けたのも、神戸高商の昇格を躊躇っていたのも背景は同じカネの問題だった。

そんな財政ピンチの中で大阪はどうやって高商の昇格を決めたのだろうか。実はその頃大阪財政は国と全く様相を異にしていた。日清日露戦争の勝利で大陸との交易が増え関西経済は活性化していたところに、第1次大戦で日本は戦勝国入りをしてドイツの中国権益を手中にした。関西経済の発展には益々拍車がかかった。大正末期に大阪市の人口は東京を上回り経済規模も東京を追い越して名実共に日本1の大都会になっていた。大阪にはカネ不足問題は全くなかったからである。

県立神戸高商の設立と伊藤新校長の対抗心

官立神戸高商の大学昇格はこうしてようやく決った。しかし予科も専門部も併設しないと判ると県商のOBと父兄が「学生は一旦県外の高商に行かなければならなくなる。それなら自分達の手で県商を高商に昇格させようでないか」と動き出し、神戸財界もそれを支持した。ところがこの動きに兵庫県知事長遠連が突然「それなら県が新しい高商を作る」と言い出し、県立神戸高商の創設は藪から棒に決まった。もし新商大に予科が併設されていたら県立神戸高商は生まていない。正に瓢箪から駒だった。旧制世代には神大と神戸商大の区別^のがつかない人が大勢いる。これが神戸には似た大学が2つあるいきさつだ。

垂水の田口町長は官立神戸高商に垂水の丘陵を1蹴されたが、県が高商を新設すると知ると駒井さんの申し出をそのままそちらに向けた。無論駒井さんも大賛成で3万坪の土地提供を確約した。直前は兵庫県議だった田口町長は県にはメッチャ顔が広く支障は何もなかった。県立神戸高商は県商に4教室を借り1929年4月22日に入学式が行なわれた。校長には大阪高商で校長事務取扱経歴のある伊藤真雄教授が指名された。

伊藤校長は小軀ながらも早速デッカい建学の指針を示した。その第1、本校を学問レベル日本1にするである。校長がそんなデッカい構想を立てたにはその背景に大阪高商とそのライバル校神戸高商をイメージしたに違いない。そしてその校長方針は学生に限らず全教員に浸透して、学校関係者全員がこの学校を日本1にしようと動き始めた。旧制時代日本にはどんな商系専門校があったのか、巻末にその校名を並べたのでご参照されたい。

「神戸高商は日本1」は本校の合言葉になった。私の在学したその25年後も「商大来るなら神戸において。神戸商大は日本1」「高丸丘から飛び立つ鳥は鳥でも天下取り」という14番からなる商大小唄(高商音頭)が唄えない学生は1人もいなかった。ゼミのコンパでは教授が真っ先に唄った。入学式の翌夕方に大講堂で新入生歓迎会があった。各運動部員が部員勧誘に出て、新入生全員に学歌 応援歌 商大小唄を徹底的に教え込むのが慣例だった。新入生はこの日初めて大っ平に飲酒して大学生になった喜びを噛みしめていた。

伊藤校長の第2のスローガンは文武両道である。しかもこれも尋常でなかった。校長は初年度から全生徒の運動部加入を制度化した。それは自らのケンブリッジ大留学体験が影響したに違いない。各運動部には神戸や大阪の中学の有名選手がドッと入学して、各教室には中学の有名選手がズラリと顔を並べた。校長は当初ラグビーかボートを校技に指定したかったようだが流石に実現できなかった。学校は総力を挙げて各運動部活動を支援した。東京高師出たての若い榎崎正雄体育学助教授は身を粉にして各運動部の強化に努めた。学校創立五十年史や各運動部の記念誌には当時の運動選手の「榎崎先生のあの熱意は生涯忘れない」という謝意と賛辞に満ちている。

こうした学校の真剣な運動部支援が実り学生数僅か500人足らずの新設校の野球 サッカー バレー バスケット ラグビーの各部は僅か数年で関西学生球界の最高位に躍り出た。しかしこれには当時官立神戸商大が多くのスポーツ種目で大活躍していたことが刺激になっている。各運動部は「商大に負けるナ」「商大を倒せ」をスローガンにしていた。

伊藤校長3番目の提唱は「スマートであれ」である。当時高専生は弊衣破帽が多かったが校長はバンカラが嫌だった。身だしなみの小ざっぱりした英国学生が焼き付いてい^た校長は、身边を小綺麗にすれば精神も健全になると説いた。高商生え抜きの三戸雄一英文学教授は50年記念誌で「スマートであれと説いた校長の真意は学生にお洒落をしろと言っていたのではない。学生の左翼化を警戒していたに違いない」と述懐している。当時経済学者や評論家の多くがマル経に転じた。1901年に社会民主党が結党して後に日本共産党と農民労働党に分離、昭和になると革新勢力が力をつけ活動を活発化させていた。当時は

軍の無理押しが始まっていたが、同時に学園の左傾化も負けず進んでいた。

戦争末期と戦後の神経大と神経専の連携行動

戦争が激化した昭和19年4月に商業という校名は戦争遂行に宜しくないと、神戸商業大は神戸経済大に、神戸高商は神戸経専に校名変更させられた。更に神戸経専は20年1月に校舎を海軍経理学校に接收され、生徒は3日後に勤労働員を臨時中止して大急ぎで机と椅子を六甲台の神経大本館にエッサエッサと運んだ。移転先の選定は軍がした訳でなく、高商に頼み込まれて経大が引き受けたのでないか。両校の連携が良かったからである。しかし勤労働員で六甲台で講義は1回も行なわれず4月の当年度入学式も7月になった。只大半の新入生はこの3ヶ月間に軍に應召されその中の何人かは戦死^{さなか}して、入学式に出たのは半数以下という大変な時代だった。その33年後に新制神戸商大は改めてその年次の入学式と合わせてこの人達の入学式を行なった。既に中年になった 신입生達は式後正門の横に昭和20年度新入生戦没者慰霊碑を建立した。六甲台に引っ越した神経専は終戦後の9月1日に再び全員で机と椅子を垂水に運び戻した。

同年10月から神経専は半年の日程で繰り上げ卒業の14・15回生と神経大予科の繰り上げ卒業生の希望者を対象に補修講習を開いた。時間がなくて補修は夜間教授私宅にも及んだ。そしてこの受講生30数名は全員21年度の神戸経大入試に合格した。その中には後に神大学長になる新野幸次郎氏もいた。戦後1ヶ月半の混乱の最中、しかも既に卒業した学生や他校の卒業生も対象に補修をした高専大学は例がない。アッパシである。

終わり

参考資料

3 商大と横浜高専の学校変遷

私塾商法講習所→府立東京商業学校→官立東京高等商業→官立東京商科大学→国立一橋大学

官立神戸高等商業→官立神戸商業大学→官立神戸経済大学→国立神戸大学

私立大阪商業講習所→市立大阪商業学校→市立大阪高等商業→大阪市立大学→大阪公立大学

私立横浜商法学校→横浜市立商業学校→横浜市立商業専門学校→横浜市立大学

旧制時代の商業高専とその設立の年次

官立東京高商 M20 市立大阪高商 M34 官立神戸高専 M35 官立長崎高商 M38 官立山口高商 M38

官立小樽高商 M44 私立高千穂高商 T3 官立台北高商 T8 私立大倉高商 T8 官立名古屋高商 T9

官立福島高商 T10 官立大分高商 T10 官立和歌山高商 T11 官立彦根高商 T11 官立京城高商 T11
 官立横浜高商 T12 官立高松高商 T12 私立松山高商 T12 官立高岡高商 T13 市立横浜商専 S3
 私立巣鴨高商 S3 県立神戸高商 S4 私立同志社高商 S5 私立鹿児島高商 S7 私立浪速高商 S7
 私立福岡高商 S9 私立関西学院高商 S10 官立大連高商 S16

(設立年不詳) 私立日本女子高商 私立善隣高商 私立甲陽高商 私立福知山高商

高商音頭 (商大小唄)

高商音頭 後の商大小唄は昭和6年11月に新装なった神戸高商の新学舎で第1回の記念祭が開かれ、その出し物コンテストで、全員揃いの浴衣姿のラグビー部がこの唄で踊り最優秀賞になった。元唄は部員村岡敏郎の郷里の舞鶴音頭である。「垂水に下宿していた小山一之 吉田要 吉田拓三君と4人で戯れて替え歌にして皆でよく歌っていたが、歓崎豊君がこれを記念祭の出し物に使おうやと言出し、岡部誠一君宅の二階で毎晩美しいお姐さんに振り付けて貰って練習を重ね、その甲斐あって記念祭で最優秀賞を頂いた。当初は少し恥ずかしかった」と部の50年史で述べている。

高商音頭

- 1 高商来るなら神戸にお出で 神戸高商は日本一 よいところ播磨の垂水町^{まち}
 寄ってけ寄ってけホイサッサ 何がどうじゃい どうじゃいな
- 2 腰の手拭い伊達には下げぬ 魔除け 虫除け 女寄せ (以下の節は繰り返す)
- 3 高丸丘から飛び立つ鳥は 鳥は取りでも天下取り
- 4 港神戸は船では保たぬ 高商健児の意気で保つ
- 5 朝の参りは海神様へ 願を解くやら かけるやら
- 6 偲ぶ恋路の霞ヶ丘に 今宵名残の雨が降る
- 7 通う千鳥に文^{うみ}こと寄せて もしも知れたら須磨の海
- 8 沖の漁火^{いさりび}夜ごとに燃えて 淡路恋しや 懐かしや
- 9 私の心は舞子が浜よ 他に木はなし松ばかり^{ほか}
- 10 恋の流人か舞子ヶ浜よ 今日も啼くよな浜千鳥
- 11 枝は折るまい 折らせもすまい 燃ゆるつつじの五色山
- 12 汲んでおくれよ私の心 垂水乙女の初情け
- 13 船は出て行く神戸の港 行くや淡路の浜千鳥
- 14 明石女郎衆についほだされて 一夜泊りが又一夜